

4. 介護ロボットおよび介護支援機器・福祉用具の使用方法（手順チェックリスト）

2) 移動・移乗スライディング用具






(2) 移動・移乗スライディング用具の使用手順および注意事項

③ ローラースライド使用手順（チェックリスト）

㊦ ベッドからリクライニング型車いすへ（介助者2人で行う。以下、介助者A、介助者Bと表記する）

項目	No.	手順	留意点や手順のねらい
使用前の点検	①	使用物品（ローラースライド、リクライニング型車いす：以下車いすやストレッチャー、スライディングシート）の点検をしておく。膝窩部に当てるクッションも準備しておく	
	②	利用者にあいさつをする	
	③	これから行うことについての説明を行い、同意を得る	
	④	利用者の体調を確認する	
移乗の準備	⑤	ベッドサイドに車いすを準備し、車いすよりベッドが少し高くなるよう高さ調整を行っておく	高さ調整をした後は、ベッドと車いすの間に介助者が入るよう、車いすの頭側をベッドから少し離す（ベッドに対して少し斜めに離れるように置く）
	⑥	車いすの座面にスライディングシートを広げておく（筒状はそのまま、1枚状のものは半分に折っておく）	車いすに移乗した後、車いす上で臀部の位置を調整しやすくするため
	⑦	介助者AとBはそれぞれベッドの左右両側に立つ（介助者Aが車いす側、介助者Bは車いすと反対側）	
	⑧	利用者の頭部と肩が乗るように枕を深めに当て、かつ移動する方向に少し引き出しておく	移乗中の頭部の保護になる 枕を移動する方向に引き出すことにより、枕が滑りやすくなる
	⑨	利用者の膝窩部にクッションを当て、枕と同様に移動する方向に少し引き出しておく	下肢の分離を防ぎ、移動しやすくなる。 下腿が支えられ安楽な姿勢になる。 足部がシートに乗りやすくなる
	⑩	介助者Bが、利用者の枕と膝窩部のクッションをもって半側臥位にし、介助者Aが利用者の身体の下にローラースライドを差しこんだ後、仰臥位に戻す	枕から足まで、体の半分がローラースライドに乗る程度に差し込めれば良い 利用者の半側臥位を支える介助者は前傾姿勢になりすぎないように注意する



	⑪ 介助者Aは背もたれを倒した車いすをベッドに水平に、隙間なく近づける		
	⑫ 介助者Aは車いすの横（背もたれ～シートの横辺り）に立つ。		
移乗	⑬ 介助者Bは、利用者の肩の下の枕と大転子部に手を当て、反対側のベッドの端まで利用者の身体をゆっくり押す。介助者Aは利用者の身体が近づいてきたら、利用者の骨盤の左右に手を当ててゆっくり引き寄せる	事故防止や利用者の不安を軽減するために、一気に車いすまで滑らすのではなく、ベッドの端（車いすとの境）で移動を止める	
	⑭ ベッドから車いすへ移乗するときに、頭部や足先をぶつける危険がないか、体幹はひねっていないか確認する。		
	⑮ 介助者Bは再び利用者の身体を押し、車いす側の介助者は利用者の骨盤を持って引き、利用者の身体を車いすの中心に載せる	介助者Aは、利用者の骨盤が車いすの座面に対して水平になるよう調整して引き寄せるようにする	
	⑯ 介助者Bは車いすの頭部に移動し、車いすのブレーキを解除してベッドから少し離す（介助者がベッドと車いすの間に入れるくらいの間隙をつくる） 介助者Aは利用者が車いすから転落しないよう、身体を支える	※体重が重い・体格が大きい利用 者で、車いすをベッドから少し離す操 作がしにくい場合は⑯は行わずに、 介助者Bは⑮の位置からローラース ライドを引き抜く。その際、介助者 は前傾姿勢になりすぎないように注意 する	
移乗後の 体位の 調整	⑰ 介助者Aが利用者の頭部の枕と大転子部、膝窩部のクッションを支えながら利用者の身体を半側臥位にし、介助者Bは、利用者の頭側からローラースライドを抜く。		
	⑱ 車いすのアームレストを上げる		
	⑲ 利用者の臀部の下のスライディングシートを活用して腰部の位置を整えた後、スライディングシートを抜く	スライディングシートは、折り重なっているシートの下面をもち、利用者の足側の方向に引き出すと良い	



	⑳	膝窩部のクッションを車いす上の姿勢に合うものと交換する。もしくは除去する	
移乗後の安全、安楽の確認	㉑	利用者の姿勢や衣服にゆがみ、ひねりがないか確認する	
	㉒	利用者自身に苦痛や体調の悪化がないか確認する	